

## 書くまえに...

① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。〇〇語(母語)でも書きますか。  
今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書くかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

② 課題を二つ(「日本の〇〇」「メールと手紙」)提示し、子どもに選ばせる。



どちらを書きますか。好きな方を選んでください。

- ・質問があれば答える。
- ・「日本の〇〇」→p90-91へ 「メールと手紙」→以下へ続く

③ 課題文を読ませ、書くことがわかったかどうか確認する。



書くことがわかりましたか。  
ではどうぞあなたの考えを書いてください。時間は□□までです。いいですか。

④ 原稿用紙の使い方を確認し、書く前にメモを作ることを勧める。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。  
書き始める前に書くことをメモするといいですよ。このメモ用紙を使ってください。

- ・原稿用紙の使い方がわからない場合は教える。

## 書きましょう...

① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけをしてはげます。

(例) <課題について詳しく話し合う>



では、まず書くことのメモを作りましょう。  
どんな時に手紙を書きますか。どんな時にメールを書きますか。  
どんな手紙(メール)をもらおうと嬉しいですか。

- ・その他、手紙を書かなければならない状況(例:けんかの後あやまるなど)を設定するなど、考える手がかりを適宜与えて考えさせる。
- ・次に、その中から何を書くか、どんな順番で書くかなど、構成を考えさせる。



一番はじめに何を書きますか。それから、何を書きますか。  
他に書きたいことがありますか。順番はいいですか。  
最後はどう書くか考えましたか。

<誘導・はげまし>



書く順番が決まったら、どうぞ書いてください。

- ・言葉がわからなかったり、表現で困って質問してきたときは答える。
- ・内容について相談してきたときは、「〇〇さんの考えを書いてください」「その考えはいいと思いますよ」などの声かけをして励ます。

## 書いたあとで ...

### ① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばりましたね。  
では、見せてください。

### ② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。  
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。  
わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。  
★書き直させる必要はない。

### ③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。  
ほかの人は、どう考えると思いますか。  
違う意見の人がいたら、どうしますか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる。



最後のまとめはうまく書けましたか。  
工夫したところがありますか。

- ・このような観点で自分の作文を振り返らせる。



書いた後で読み返しましたか。

### ④ 振り返りを行う。



よくがんばりました。  
とても上手に書けました。良かったです。  
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終われるようにほめる。  
「～というところが特にいいですね。」等、具体的にほめるとよい。  
対話でたくさん話せた場合には、「最後に意見がしっかり言えましたね。」のようにほめる。

#### メモ:

「意見・考え」を述べる課題。正解があるわけではないので、なぜそう考えるのかについて上手に伝えられるように、また、違う意見もあることを考えに入れて書くように誘導する。